

市民病院のあり方の要検討事項

○視点②『地域の病院としての役割』について

●前回までの意見

視点②については、前回までの本部会では殆ど検討を行っておらず、直接的な意見としては次の意見が出されたのみである。

- ・仮に市民病院がなくなるのであれば地域医療のバランスが変わるので、何らかの配慮が必要である。

また、市民病院の医療機能に関連して出された主な意見は以下の通りである。

- ・市内の2次救急施設は施設間で重症患者への対応能力に相当の開きがあるが、市民病院は積極的に重症患者に対応している。
- ・市民病院は博多区、東区、粕屋地区を中心に質の高い脳卒中医療を提供している。
- ・市民病院は肝臓及び脊椎の分野において質の高い医療を提供している。特に肝臓は臨床的にも学術的にも評価が高い。他に人工透析での難易度の高いシャント術等の実績もある。
- ・市民病院での心臓の分野は取り組み始めて間もなく、まだ規模が小さい。

●参考データ

1) 市民病院における救急総件数 (H18)

出典：市民病院データ

夜間及び休日の急患並びに受け付け時間外の急患（救急車除く）	1,121
救急車	1,391
搬送車	57
総件数	2,569

2) 救急車搬送元 (H18)

出典：市民病院データ及び市消防局統計を加工

搬送元	搬入件数	全件数に占める割合	各区におけるシェア(※)
東区	458	32.9%	5.0%
博多区	475	34.1%	4.0%
中央区	34	2.4%	0.4%
南区	15	1.1%	0.2%
城南区	5	0.4%	0.1%
早良区	12	0.9%	0.2%
西区	4	0.3%	0.1%
その他	388	27.9%	—
合計	1,391	100%	—

※ 搬入件数÷区毎の市消防局救急出動件数（転院搬送除く）

3) 初診時の疾病名別分類 (H18)

出典：市民病院年報アイリス

意識障害・めまい	455
外傷（腰痛含む）	465
胸痛	40
消化管出血	34
急性腹症	128
その他	324
未記入	2
合計	1,448

4) 福岡市消防局救命救急士の挿管実習 (H16～H18)

出典：市民病院データ

①挿管認定救命士の 実習先内訳	市民病院：16名 他6病院：13名
②気管挿管実施症例数 (H17.2～H19.3)	全99例のうち市民病院実習者担当症例は82例

5) 手術症例数 (H18, H19)

出典：市民病院データ

診療科毎の 手術症例数	H18		H19		主な手術症例毎の 手術症例数	H18		H19	
①脳（脳神経外科、 神経内科）	108	134	・rt-PA治療（血栓溶解剤静注治療）		6	12			
			・脳動脈瘤クリッピング術		35	22			
			・脳内出血開頭血腫除去術		15	3			
			※両診療科、放射線科の医師が全症例について検討し、治療にあっている。チームによる迅速な救急医療体制をとっている。						
②心臓（循環器科）	97	121	・経皮的冠動脈形成（ステント留置）術		92	109			
			・ペースメーカー移植（交換）術 5年生存率 61.4%（全国平均54.8%） 10年生存率 33.2%（全国平均28.9%）		5	12			
③（外科）	736	760	・肝癌手術		65	78			
			・胃、大腸、脾臓、膵臓に対する鏡視下手術		59	68			
④腎臓	269	310	・透析用バスキュラーアクセストラブル修復術		269	310			

6) 地区別患者数 (H13, H18)

出典：市民病院年報アイリスを加工

区 分	入 院				外 来				
	平成13年度		平成18年度		平成13年度		平成18年度		
	患者数 (人)	割合 (%)	患者数 (人)	割合 (%)	患者数 (人)	割合 (%)	患者数 (人)	割合 (%)	
福岡市	東区	18,760	26.6%	17,030	25.1%	33,901	28.2%	18,317	28.3%
	博多区	15,897	22.6%	15,014	22.2%	38,932	32.4%	20,689	31.9%
	中央区	2,079	3.0%	1,548	2.3%	2,458	2.0%	1,209	1.9%
	南区	2,384	3.4%	954	1.4%	2,325	1.9%	1,250	1.9%
	城南区	988	1.4%	223	0.3%	1,141	0.9%	365	0.6%
	早良区	1,512	2.1%	1,831	2.7%	1,973	1.6%	716	1.1%
	西区	1,687	2.4%	1,232	1.8%	1,419	1.2%	571	0.9%
	福岡市計	43,305	61.5%	37,832	55.9%	82,150	68.3%	43,117	66.6%
福岡都市圏	糸島ブロック	740	1.1%	443	0.7%	536	0.4%	219	0.3%
	糟屋ブロック	16,522	23.4%	22,180	32.7%	25,525	21.2%	16,604	25.6%
	宗像ブロック	1,745	2.5%	778	1.1%	3,012	2.5%	721	1.1%
	筑紫ブロック	2,132	3.0%	1,594	2.4%	3,764	3.1%	1,643	2.5%
	小計	21,139	30.0%	24,995	36.9%	32,836	27.3%	19,187	29.6%
県内その他	2,718	3.9%	1,927	2.8%	2,949	2.5%	1,587	2.5%	
九州(福岡除く)	2,623	3.7%	2,394	3.5%	1,839	1.5%	643	1.0%	
その他	674	1.0%	582	0.9%	550	0.5%	230	0.4%	
合 計	70,459	100	67,730	100	120,325	100	64,761	100	

7) 紹介率の推移 (H13~H18)

出典：市民病院年報アイリスを加工

	H13	H14	H15	H16	H17	H18
紹介率	19.7%	21.7%	30.8%	40.1%	47.6%	60.9%
逆紹介率	—	—	23.9%	12.1%	32.4%	39.5%

○視点④『(仮)市の政策上の視点』について

●前回までの意見

視点④については、前回部会において下記の意見が出されている。

採算性・効率	<ul style="list-style-type: none"> 行政は市場原理だけでは任せられない部分の医療を積極的に担うために市民病院を保有すべきである。 効率的な市政運営を第一に考えるべき。民間病院ができないことを公的病院が担うというが、民間病院も機能をアップしてきているので、大都市だからといってこども病院と別に病院(ハード整備)が必要だという意見には反対である。
情報収集の手段	<ul style="list-style-type: none"> 医療政策へ反映できる正確な情報やデータを収集したり、医療ネットワークづくりの手段として市民病院を継続して保有すべきである。

産婦人科関係	<ul style="list-style-type: none"> 市中の産婦人科では性的被害を受けた小児患者の受け入れ先がなくて困っている。以前は市民病院が受け入れをしてくれていた。 未受診妊婦は未払いが多く、開業医が受けたがらないため、市民救済の観点から市に担って欲しい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 海外ではその都市の医療レベルと文化レベルは密接な関連がある。福岡は地理的・歴史的に医療と関連が深い土地柄であるため、都市文化の象徴として特色ある医療を掲げるべきではないか。 拠点病院には周辺に関連産業が集積する相乗効果があり、集積した末には情報発信の基地になりえる。拠点形成には健康未来都市をうたっているアイランドシティが望ましい。 福岡市として何らかの形で公的病院を持っておかないと福岡市の恥になる。

●国のガイドライン

国は平成19年12月に「公立病院改革ガイドライン」を策定し、地方自治体に自治体病院のあり方の再考を求めている。

●公立病院の果たすべき役割の明確化

- 公立病院をはじめとする公的医療機関の果たすべき役割は、端的に言えば、地域において提供されることが必要な医療のうち、採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供することにある。
- 公立病院に期待される主な機能を具体的に例示すれば、①山間へき地・離島など民間医療機関の立地が困難な過疎地等における一般医療の提供、②救急・小児・周産期・災害・精神などの不採算・特殊部門に関わる医療の提供、③県立がんセンター、県立循環器病センター等地域の民間医療機関では限界のある高度・先進医療の提供、④研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能などが挙げられる。各公立病院は、今次の改革を通じ、自らが果たすべき役割を見直し、改めて明確化すると同時に、これを踏まえ、一般会計等との間での経費の負担区分について明確な基準を設定し、健全経営と医療の質の確保に取り組む必要がある。
- このような観点からすれば、特に民間医療機関が多く存在する都市部における公立病院については、果たすべき役割に照らして現実に果たしている機能を厳しく精査した上で、必要性が乏しくなっているものについては廃止・統合を検討していくべきである。また、同一地域に複数の公立病院や国立病院、公的病院、社会保険病院等が並存し、役割が競合している場合においても、その役割を改めて見直し、医療資源の効率的な配置に向けて設置主体間で十分協議が行われることが望ましい。